

頭津田林左衛門政陳が之に任じた。又銀座に準じて札座を置き、札座頭五人、帳面方三人、銀掛二人、算用方二人、銀包方二人、錢調方二人、口錢方二人が居た。

(四)銀鈔の種類一、百目・五十目・三十目・二十目・十目・五目・三目・二目・一目の九種で、後に五分札を加へた。銀札の表面には『加州金澤寶鈔』『寶曆五乙亥季』『銀百目』『寶鈔無帶可通行。偽造之者可處嚴科。犯人於訴出者。雖爲同類宥之。賞銀五十枚。以可給犯人之家財也。』の文字が篆書で印刷されて居た。

(五)暴動蜂起一この銀札は不換紙幣であつたから、錢との交換比例直に下落し、寶札亦行はれ、翌六年米價騰貴して人心恟々たるものあつたが、遂に四月十二日衆民糾集して直に暴動化し、戌刻から子刻の間に、米商人森下町釣部屋仁兵衛・同茶屋三郎兵衛・尾張町淺野屋和左衛門・新町茶屋三右衛門・下堤町角屋彌三右衛門・袋町木屋藤太郎の家を襲うて之を破壊した。藩乃ち人心の鎮靜に努め、十三日前記六人の被害者の外九人を獄に投じ、銀札奉行津田宇右衛門・青地彌四郎に閉門、前出源五左衛門に遠慮を命じ、十四日金澤町奉行二人の職を擱ひ、一面寶札犯罪者たる藩士寺西彈正の家人山田與三右衛門、金澤御坊町の紺屋九郎兵衛、越中津幡江村の十村源五及びその同類を斬刑に處して、銀札の信用恢復を計つた。

(六)發行停止一此の如く銀札の發行は全く失敗に終つたから、當時在江戸の前田重政は、六月朔日書を以て旨を在國の本多安房守政行に傳へ、七月廿五日月番年寄横山大膳隆達をして銀札停止の命を發せしめた。この際米五

百石と銀子二千貫目を提供して、銀札十分の一の償還に當てしめ、自餘は明年以降皆濟せんことを約し、又諸士にその秩祿納納を強要した。

ホウレキクネンカナザハタイカノキ 寶曆九年金澤大火之記 一冊。内題には寶曆九己卯年加州金澤火事之一巻とあり、同年四月十日の大火災に就いて詳叙してある。編者不詳。ホウレキシヤゴウチヨウ 寶曆社號帳 寶曆九年幕府寺社奉行の命によつて、領内三ヶ國の小祠に至るまで悉く調査したもので、その帳の表に社號並神名帳と記してある。この帳冊が以後社號の龜鑑となつたものである。

ホウレキノタイカ 寶曆の大火 寶曆九年四月十日申刻、金澤泉寺町玉龍寺の塔頭舞臺寺から出火し、翌十一日巳後刻までに城内殿閣を初め民家登萬五百八家を焼き、死者廿六人に及び、穀三十八萬七千三百六十五石を失うた。爲に藩は幕府から金五萬兩を借入れ、一時の急に當てた。

ホウレンジ 法蓮寺 金澤野田寺町に在つて日蓮宗に屬した。その初は不詳であるが、元和元年高島五郎兵衛が重建して、日珪を寺主としたといふ。後寛永三年前田利常の京師から日翁を伴うて還るや之に居らしめた。元祿十年五月時の住持罪を犯して禁獄せられ、十一年十一月寺號斷絶した。因つて十三年四月淨土宗の心岩はその舊地を請うて大圓寺を之に移した。

守と記したものは是に當る。天和三年加賀藩が平尾邸の地を増賜せられんことを幕府に請うた時の文中に、永代島の屋敷二三ヶ所を代納するであらうと言つたのは、永代島・炮燵島・深川の三邸を指したのである。但しその地荒蕪で、それを請けるものなかつたから、事實上幕府に交附したのは貞享三年四月であつた。廣さ二萬三千餘歩。

ホエギ 吠木 鳳至郡大屋庄に屬する部落。明治中空熊に併合せられた。能登誌に、『此吠木村領瀬谷と呼べる所に、大地二ヶ寺の廢跡あり。堀・礎等今にその礎ありて、大木の根二本あり。』と記する。

ホエギザクラ 吼木櫻 珠洲郡眞言宗法住寺の境内に在つた。元祿十三年句空の草庵集に、『能州吼木山は高野大師(弘法)開基の所なり。一木の櫻を手づから植られたるに、山を出で給ふ時、わかれを惜しみて櫻のなきけるより此名ありとぞ。』又能登名跡志に、『吼木山法住寺は則法住寺村に在り。或時大師法華讚誦の聲に隨ひ、此磯に舟をつけ給ふに、何國となく老翁一人來て曰、我住む山に櫻の古木ありて、夜々光り物ありて吼る聲ありと云。大師此翁にみちびかれて登り見給へば、法華讚誦の聲は此木の聲也。光物は大唐より投げ給ふ所の五銚杵也。』とある。

ホエギザンホウジウジエンギ 吼木山法住寺縁起 一冊。珠洲郡眞言宗法住寺の縁起である。

ホエギシラヤマジンジャ 吼木白山神社 珠洲郡法住寺(部藩名)に在つた。式内等舊社記に、『吼木白山神社。直郷吼木山鎮座。舊社也。』とある。

ホクエツイブン 北越選文 十五冊。森田平次著。著者の涉獵した文集・諸雜記中、加越能三州に關する記事・傳文・序跋・願文・讀辭・尺牘・碑文・銘銘等得るに隨うて集めたものである。

ホクエツセンソウ 北越戦争 ↓エチゴセソウ 越後戦争。

ホクエツセンソウシユツジンニツキ 北越戦争出陣日記 一冊。八里知益著『明治元年加賀藩が越後に出兵した時、その六月二日小川仙之助隊の補充として割場附足輕五十人を以て編成した銃隊の半隊司令役であつた著者が、十月廿七日凱旋に至る間の日誌と復命書である。巻初には同じく小川隊の後藤昔植の書いた北越出陣記が添へてある。

ホクエツルイジユウシリヤク 北越類從史 十六冊。森田平次著。加越能三州の事實にして、國史・格式以下諸記録に見えたものの抜萃である。

ホクカイ 北海 加賀の人。眞宗東派の僧。一名秀了。嗣講賢藏の門人で、天保三年寮司に任ぜられた。

ホクカイシダン 北海雜談 一冊五卷。鼎州叢書ともいひ、その鼎州は加越能三州が鼎立するの意なることを自序中に述べてある。産神良民、婢女孝思、苜卷直諫、父子爭罪、花子勸善、玉井賢媛、丹州伐竹等の目によつて、種々の逸話を記したものである。

ホクカイドウカイタク 北海道開拓 明治二年八月廿八日太政官は金澤藩に命じて、北海道北見國の内宗谷郡・禮文郡・枝幸郡の支配と開拓とを託し、拮据經營して實功を擧ぐべきことを命じたが、藩は到底その力の及ぶ能